

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：湖水苑

施設種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日時： 1年 12月 11日 14時～15時

会場： 湖水苑レイクホール

参加者

利用者代表	0人	有識者	2人
利用者家族	0人	高齢者あんしん支援センター職員	1人
地域住民の代表	1人	出雲市職員	0人
その他〔施設長・介護支援専門員兼管理者、〕			2人

1：利用状況

ご利用状況現在

男性2名、女性17名（空床0）平均介護度2.1 平均年齢 86.8才
湖陵町6名、佐田町2名、大津町1名、大島町1名、知井宮町1名
所原町1名、大社町1名、塩冶町1名、今市町2名

2：近況報告

外出



10月に2回に分けて外出へ行きました。最初は天気が良かったのでドライブをし、道の駅でソフトクリームを食べました。次の組の日は雨だったので、イオンモールへ出かけました。コースター作りを体験させてもらったり、スイーツを食べたりと、みなさんご満足されました。

入退所状況

入退所なし

待機状況

現在12名の入所待ちの待機状況。

事例発表

* 72歳女性 入所2年2ヵ月

入所後より、状態の変化が続いており、比較的早いスピードで認知症が進行していた。話す内容が支離滅裂となり、過去の記憶や語彙が急速に少なくなった。昨年秋ごろより服を重ね着するようになり、多い時では20枚以上着込むこともあった。3月頃より、強い帰宅願望の訴えが始まり、感情の起伏が激しくなった。4月に入り、自室より外へ出られることが増え、職員で話し合いの時間を多く持った。今までの関わり方を見直し、認知症高齢者に対する専門職としての対応をするよう心掛けた。また夜間専門職員とも同様の話し合いの場を設け、全職員が同じ対応をするよう努めた。家族とも面談を行い、現状の状況、行っている対応、今後起こりうることなどを

伝えた。万が一のことを考え、家族と共に、近隣の商業施設へ情報提供を行い、協力を得ることが出来た。主治医とも相談をし、少し内服薬の種類を増やした。それでも外へ向かわれる状態が続いているが、職員との関係は深まり、少しずつ外へ向かう回数も減っている。

* 2か月経過した様子

外へ向かう回数は、一瞬減ったが、収集癖が強くなり、苑庭の花や枝葉を際限なく採取をするようになった。自室より早朝から日が沈むまで、何度も出入りを繰り返し、職員の誘導にも応じず、炎天下の中、植物を採取し続けた。職員の対応も追いつかず、職員が誰も気づかないまま外へ出て、他部署職員に見つけてもらって帰って来ることも多くあった。再び主治医に相談し、入所前にかかりつけであった神経内科へ紹介状を書いて頂き、受診する。新たな内服薬が処方され、様子を伺うが、落ち着かれる様子無く、経過を伺う。部屋は草木だらけになり、独特の匂いや、微生物などが溜まる。タイミングを見て掃除に入って処分するが、またすぐに増えてしまう堂々巡りが続いた。週に1度受診を行い、その都度、内服薬を微調整しているが、未だ試行錯誤の日々が続いている。現在、外で植物を採取することはほぼ無くなったが、施設内での収集（他者居室、事務所、玄関にて）は続いている。

* 更に2ヵ月経過した現在の様子

毎週病院に通ってドクターと情報共有し、薬の調整を続けた。なかなか状態の良い変化が見られず、少しずつ服薬量が増えた。8月末、急に薬の効果が顕著に表れ、あらゆる体の機能が停止し、ほとんどの動作に介助が必要となった。歩行機能が無くなり、車イス移動となった。食事に時間がかかり、摂取量も減った。排泄感覚がなくなり、常に介助が必要となった。すぐさま、すべての精神薬の服薬を中止して機能回復を図った。1週間が経過した頃、少しずつ機能が回復して自立して出来る事が増えた。歩行機能が回復すると、収集や外へ向かうなどの行動も再開した。ドクターと相談しながら、少しずつ、服薬も再開した。現在は毎日、その日の様子を伺いながら、服薬量を決めて対応している。

現在の様子

なかなか状態が安定せず、落ち着かない日々が続いていたが、11月半ばより始めた投薬時間の変更が、転機となり少しずつ、良い兆しが見え始める。現在も日中、施設内を歩き回る状態は続いているが、以前のような収集癖は減り、身体能力の維持も出来ている。夜間は長く眠ることが出来ていて、失禁などもほとんど見られない。主治医も現在の改善された状態に対して、施設の努力を高評価している。

認知症高齢者の日常生活自立度について

別紙参照

グループホーム湖水苑の現在

Ⅱb 4人

Ⅲa 7人

Ⅲb 3人

Ⅳ 1人

3：今後の予定

- ・ 次回の運営推進会議は2月12日です。

* 報告終了後、施設長より防災計画について説明あり。昨今の災害の増加による、防災計画の見直しを迫られており、新たな計画を作成し市へ提出する予定であることを説明する。

◎参加者より

- ・ 大池地区では障がい者施設と地域住民が合同で避難訓練を実施している。
- ・ (災害時に地域住民が老人施設へ避難誘導の手伝いが出来るか? という質問にたいして) 町には独居老人も多くいるので、その方たちの避難が優先される。自分の町内だけで精いっぱい、正直施設に手伝いに行く余裕は全くない。
等の貴重な意見を頂く。